



ピーマン

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培					●	○	●	●	●	●	●	●

● 種まき ○ 植えつけ ● 収穫

育て方のポイント

育苗期(1番果開花前) 昼間25～30度 夜間20度
以降生育適温 20～25度

- ①畑の準備**
 - 長期にわたって栽培するが、根が細く弱いため、排水の良い肥沃な土壌を選ぶ
 - 果実を多く成らせ、木に負担をかける為、多収には堆肥の施用が必要である
 - 過湿に弱く細い根が伸びる為、地下水の高いところは高畦にする
 - 植え付け後すぐに活著し、肥料を吸収できるよう、基肥は定植1週間前までに施す
- ②植えつけ**
 - 5月上旬以降に植える 早植えは生育を著しく遅らせるため行わない
 - 定植は畝幅180cm、株間60cmで浅植えにする
- ③マルチング**
 - 黒マルチを敷き、雑草を予防する 夏場は高温予防の為、わらを敷く
 - 地温は15度を確保する
- ④支柱立て**
 - 植え付け後、株の固定と側枝を支える為、長さ180cm程のカラー綱管を用い支柱を立てる
- ⑥整枝・誘引**
 - 1番果のある分枝部から下位のわき芽は、早めに取る
 - 枝は最初2つに分かれ、以降も2つづつ分岐していく 枝は4本仕立てとする
 - 徒長した細い枝はかきとる

ワンポイント

- 開花から約20日前後で果実が収穫できる 収穫果が多い為、見残しのないようにする
- 高温時、乾かん水不足が続くと、尻腐れ果が発生しやすいので、畝間灌水を行う
- 肥料不足・灌水不足になると形状の悪い果実が多く出来る為、たえず肥料を効かせてマメに灌水する
- 奇形果(曲がり果や石果)は、見つけ次第除去する

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基肥	追肥	備考
苦土有機化成特A801	100g	40g	
苦土石灰	120g		
コンポストエース	3kg		

※6月中旬頃に、第一回の追肥を施用し、その後草勢を見ながら、2～3週間ごとに散布する
※7月～8月の高温期はかん水を充分行う

十字または円形の穴をあける

植えつけ

早めに黒マルチを敷く(雑草防止と地温の確保)

排水の悪い所は高畝にする

地温は15度以上が理想

60cm

180cm

追肥

草勢を見ながら収穫初め頃から2～3週間間隔を目途に穴肥やうね間に施す

置きわらとマルチ明けからの灌水で土の乾燥を防ぐことが大切です

4本支柱立て

ビニールモ

カラー綱管

2次分枝

30cm

1番果から伸びて来る2本の1次分枝とその1番果から伸びる4本の分枝を主枝とする

管理

この葉のわき芽は早めに除去する

1番果(早めに収穫)又は摘果

同じ番号のものはだいたい同じ時期に摘果してきます

障害果

日焼け果 曇場が多い強い光が当たる為

しりぞれ果 カルシウム欠乏症 水分不足で曇場が多い

変形果 1番果又は草勢低下時に多い

小さく形が変形している